

トラック 21-2

昔々、ドンバのバンダマジにスルタンがいた。彼の名前はアビディ・コプヴェンゼだった。このスルタンは村を治めていたが、或る日フンブニの城壁 [ヌゴメ] に呼ばれた。そこにはスルタンがいて、彼に言った：「今日ここにきてもらったのは、ドンバを我々に売るか、譲るかしてもらうためだ」。

アビディ・コプヴェンゼは尋ねた：「何だって？」。

「いいかい、あなたをここに来させたのは、あなたがドンバの地を我々に売るか、譲るかしてもらうためだ」。

彼は答えた：「私アビディ・コプヴェンゼは、死ぬ者達のことを案じる。何故ならば、ドンバの地は辿り着いた肩を経たのであって、発つ肩を経たのではない」。

[この地を征服するには戦いとなるの意]

彼は村に戻って村人を集めて言った：「私はフンブニの城壁まで呼ばれて、ドンバの地を売るか譲れと言われた。そこで、私アビディ・コプヴェンゼは、死ぬ者達のことを案じる、と答えた」。それから、彼はフンブニ [の兵士たち] がやって来る足音を聞いた。彼はモワンゼを呼んで言った：「フンブニらがやって来たようだ」。

「それでは、アビディ・コプヴェンゼ、イツァングェ [村の入り口から離れた場所] に行き兄弟達を待ちながら隠れているのがいいのでは」。

アビディ・コプヴェンゼは答えた：「いや、私はイツァングェには行かない。ここでは蚊に食われるからだ。私はここに留まってフンブニの連中を待つ」。

モワンゼは再度頼んだ：「それでは、バンダ [村の入り口] で奴らを待ちましょう。そうしないとここに追い詰められてしまいます」。

アビディ・コプヴェンゼは答えた：「いや、バンダニには行かない。私のはらわたがムハンバ [木の一種] で抜かれようと」。

モワンゼは尋ねた：「あなたはフンブニ達にドンバを譲ることを認めたのですか？だから私の忠告を聞かないのですか？」。

彼は答えた：「いや、私はここに留まる」。

彼らはボイナを物見櫓に置いて彼に言った：「もし奴らが来るのが見えたら角笛で知らせるように」。モワンゼはアビディ・コプヴェンゼに言った：「私はここに

は留まりません」。彼は姉のところに行って言った：「支度をしなさい。我々はハマハメの地に向かう」。彼の姉は荷物を整えた。彼らはガラージュと呼ばれているところに上り、イルムベと呼ばれている場所を過ぎて、モホロの人々を見つけたが、そこも通り過ぎた。そこで彼の姉が言った：「私はマントを持ってくるのを忘れしました。ベッドの足の下にあります」。モワンゼは姉に言った：「私が探しに行くから待っているように」。彼はモホロの人々の前を通り過ぎた。彼がマントを取って戻ってくると、モホロの人々のひとりが言った：「モワンゼが戻って来た。あいつは我々に向かってきたので今こそここで殺してしまおう。」。

モワンゼは言った：「おい、ドンバへの道はあつと言う間に消えたのだ。私が行って戻ったのが一瞬だったろう。そこで待っている。目にもの見せてやる」。彼は剣を抜いた。それを見てモホロの人々は姿を消した。

ところでこの話はフンブニの人々の耳に入り、彼らは〔モホロの人々を〕こう名付けた：《神が【モワンゼを見逃した者達】の姉妹を召されんことを。彼らは〔モワンゼが〕行って戻るのを見逃した。我々ならそんなことはさせない》。